

(別添)

国立病院機構福岡東医療センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年8月 策定

【福岡東医療センターの基本情報】

医療機関名：国立病院機構福岡東医療センター

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：福岡県古賀市千鳥 1－1－1

許可病床数：

（病床の種別）一般541床、結核38床、感染症12床

（病床機能別）高度急性期68床、急性期311床、慢性期120床 休床42床

稼働病床数：

（病床の種別）一般499床、結核38床、感染症12床

（病床機能別）高度急性期68床、急性期311床、慢性期120床

診療科目：内科、精神科、神経内科、アレルギー科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科
呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、婦人科、リハビリテーション科、
放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、呼吸器内科、循環器内科、血液・腫瘍内科、
糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、感染症内科、神経小児科、救急科、病理診断科
脳・血管内科、消化器・肝臓内科、血管外科、肝臓外科

職員数（H29年6月1日現在）

医師…常勤86名、非常勤19名 薬剤師…常勤13名 放射線技師…常勤18名

検査技師…常勤19名、非常勤3名 理学療法士…常勤10名 作業療法士…常勤7名

言語聴覚士…常勤4名 臨床工学技士…常勤4名 栄養士…常勤5名、非常勤3名

児童指導員・保育士…常勤10名 事務…常勤20名、非常勤42名

診療情報管理士…常勤3名 医療社会事業専門員…常勤1名、非常勤1名

看護師（病棟）…常勤397名、非常勤2名

（外来）…常勤23名、非常勤26名

（手術室）…常勤21名

（その他）…常勤26名、非常勤1名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(1) 地域の人口及び高齢化の推移

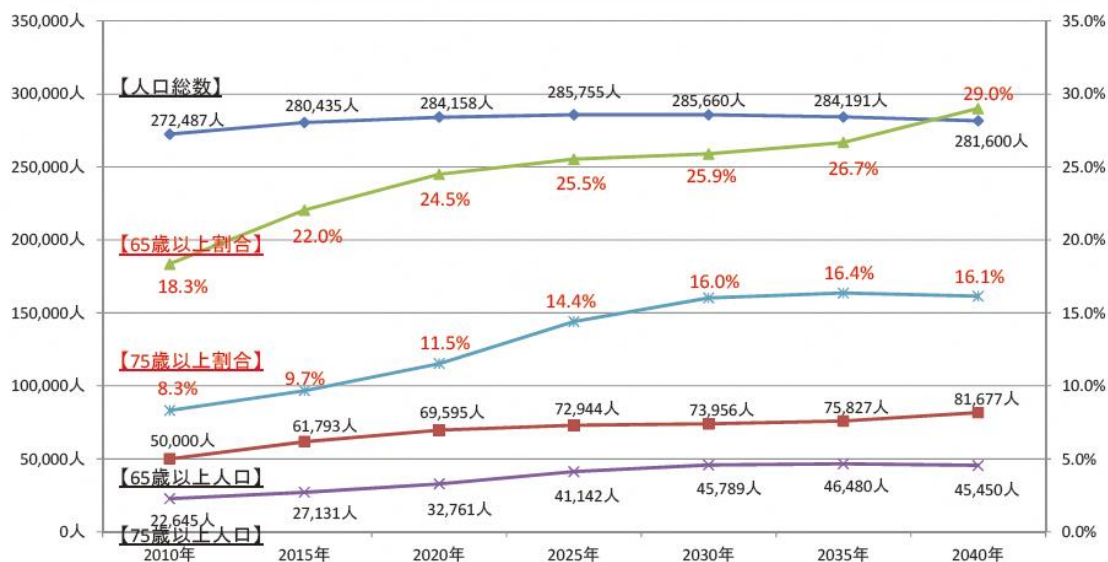
・当院は、福岡県地域医療構想の粕屋区域に位置している。

当該区域の総人口は2010年に272,487人だったところ、現在増加を続けており、2025年にピークを迎え285,755人（対2010年+4.7%）となる予測。

・一方で、人口の増加を65歳以上の高齢者の増加が上回ることが予測されており、2010年の18.3%が、2025年には25.5%となり、2040年には29.0%に増加する見込み。

高齢者人口が増加するため、医療需要も増加し、2035年頃にピークに達し、2010年の145%を超え、その後しばらく高水準を維持する見込み。

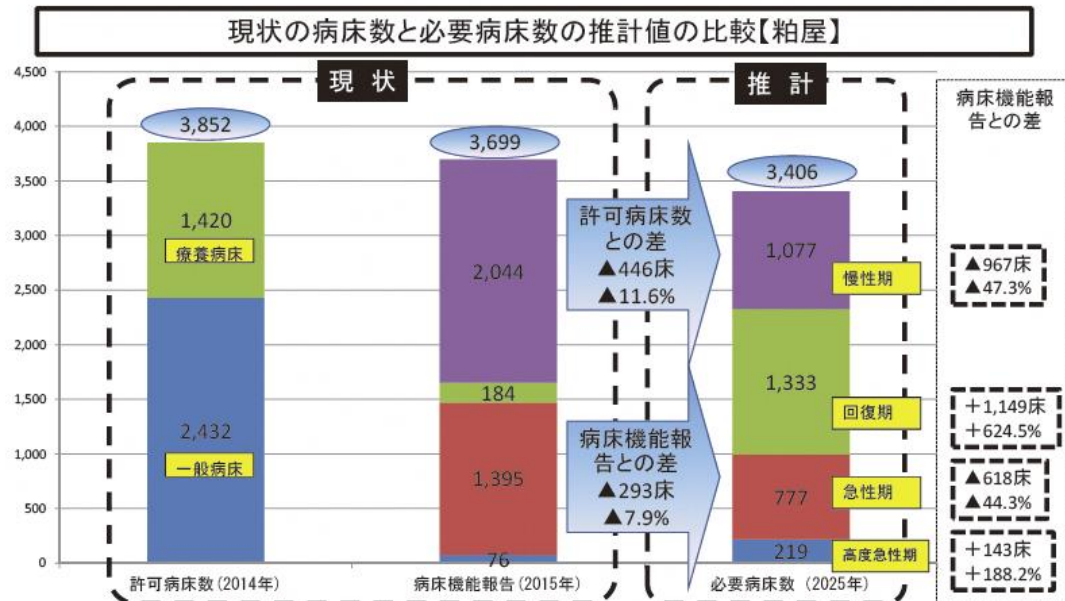
粕屋区域の人口推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月中位推計）」

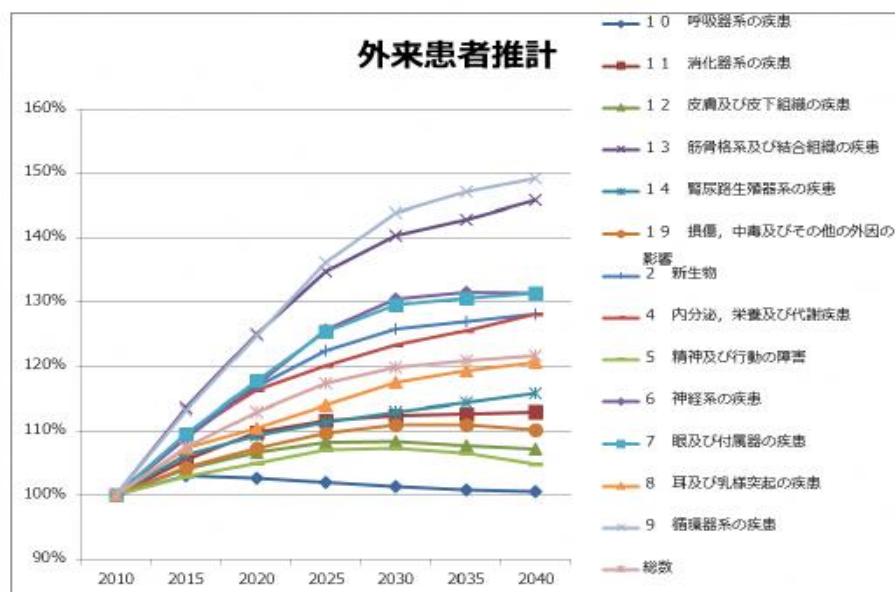
(2) 地域の医療需要の推移

- ・医療施設調査に基づく2014年時点の許可病床数は3,852床であり、2025年の必要病床数の推計値と比較すると、必要病床数が許可病床数を446床下回っている。
- ・2025年の必要病床数の推計値を現状と比較すると、回復期病床では必要病床数を1,149床下回っている。また、高度急性期病床も143床下回っているが、高度急性期と急性期の合計値で比較した場合は、475床上回っている。

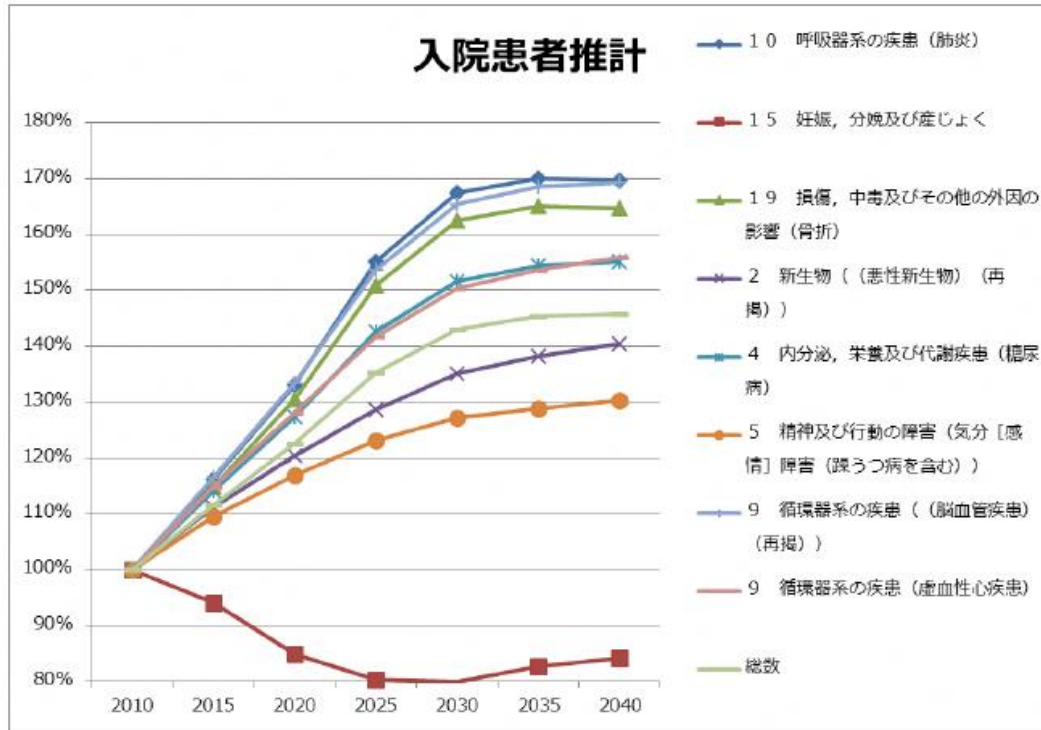


(3) 傷病別患者数の推計

- ・外来では、2010年と比較した場合、2025年にかけて総数で17%増加すると推計されている。傷病別では、循環器系疾患（主に脳血管疾患、虚血性心疾患）、筋骨格系疾患（骨折）の患者が35%増加すると見込まれている。



- ・入院では、2025年にかけて総数で35%程度増加すると推計される。
傷病別では、特に肺炎、脳血管疾患、骨折の患者が51%～55%増加すると見込まれる。
一方、妊娠・分娩は20%程度減少すると見込まれる。



- ・今後、高齢者人口が増加する中で、特に75歳以上の高齢者の人口の増加に伴い、認知症高齢者は増加すると見込まれる。
国の推計をもとに粕屋区域の認知症高齢者を推計すると、2010年では8千人、2025年には15千人となる。

② 構想区域の課題

- ・2015年の病床機能報告の病床数と2025年の必要病床数を比較した場合、回復期病床が1149床不足する見込みとなっています。
- ・回復期病床は、入院医療と在宅をつなぐ重要な役割を果たすことから、既存の急性期又は慢性期病床からの転換により、回復期病床の確保を図っていくことが必要。
- ・医療機関の連携や医科・歯科連携を一層進めていくとともに、将来のあるべき医療提供体制を支える医療従事者の確保に取り組んでいく必要がある。
- ・慢性期病床及び在宅医療等の機能分化・連携については、現在の療養病床入院患者の一部について、将来、在宅医療等に対応する患者として必要病床が推計されていることから、在宅医療、介護施設等での受入能力の向上が求められています。
- ・在宅医療等の提供体制の充実や在宅医療・介護の連携強化に取り組んでいくとともに、介護サービスの確保に取り組んでいくことが必要。

③ 自施設の現状

・ 当院の理念

「当たり前のことを実践し、地域に信頼される病院」

・ 当院の運営方針

1. 全ての思いを汲み全ての力を結集し、安全で安心な医療を提供します。
2. 地域に開かれ、地域に根ざした病院を目指します。
3. 職員が一体となり健全な病院経営に努めます。

・ 当院の診療機能

1. 3次救命救急センターとして、粕屋北部、宗像地区の救急医療に貢献する。
2. 県内唯一の第1種感染症指定医療機関として、1類、2類感染症の治療、感染症全般に対する医療に貢献する。
3. 呼吸器疾患の基幹医療施設として、広域を対象とした難治性を含む全ての結核に対応するほか、気管支喘息・外科的治療・放射線療法を含む呼吸器疾患領域全てに対応する。
4. 循環器疾患の専門施設として、脳卒中の救急治療、急性冠症候群、心不全、不整脈への救急対応を24時間365日体制で行う。また、血液透析導入、他疾患を合併した慢性透析患者にも対応する。
5. 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療、がん化学療法、緩和ケアに重点をおいて地域医療に貢献する。
6. 重症心身障害の専門医療施設として、重症心身障害の療育にあたる。特に医療機関に附設されているという特性を活かし、呼吸器・消化器・骨関節・神経領域等の合併症患者の要医療入院、短期入院に力点を於いて運営する。
7. 脳血管障害、運動器疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患、がんと様々な疾患に対して、質の高いリハビリテーションを提供する。

・ 小児救急体制においては、2次医療圏を越えて1次救急を宗像区域の宗像地区急患センター、2次救急、入院施設として粕屋区域の当院が役割を担っている。また、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院として、区域内の急性期中核病院の役割を担っており、さらに救命救急センターとして救急医療を担っている。

併せて、福岡県唯一の第1種感染症指定医療機関としての役割も担っており、呼吸器疾患の基幹医療施設として、結核病棟を有している。

なお、重心病棟は120床有しており、重症心身障害の専門医療施設として機能している。

④ 自施設の課題

(1) 病床

高度急性期…救急搬送の受入件数が伸び悩んでいる。ICU6床は稼働率が低い。

急性期…平均在院日数の短縮もあり、病床利用率は伸び悩んでいる。

感染症…何時でも対応できるよう人的、物的の準備はしているが、稼働は無く収支的には厳しい。

結 核…患者数の減及び在院日数の減により収支は厳しい。

(2) 従事者

医師…病理医、放射線科専門医の確保が急務。

(3) 経営状況

救急搬送受入件数増加等の患者確保、後発医薬品導入による費用削減等により収支の改善を図る必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

(1) 救急医療

当院は、粕屋区域唯一の公的医療機関であり、かつ救命救急センターを擁し、当該区域のみならず近隣医療圏の3次救急医療を担っている。粕屋・宗像小児救急体制においては、2次医療圏を越えて、1次救急を宗像地区急患センター、2次救急の入院施設としての役割を当院が担っている。

粕屋区域において救急医療を担っている病院は、当院と青洲会病院の2施設であり、粕屋北部では当院のみであることから、同区域内での当院に対する救急医療への期待は大きい。さらに、当該区域の高齢化・人口増加に伴い、当院の救急患者は増加しており、今後も増加する見通しである。

以上のことから、今後は、救急患者の受入を強化することで粕屋区域の医療に貢献すべく効率的な病院運営を行っていく方針である。

(2) 機能

地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院として、区域内の急性期中核病院の役割を担っている。

(3) 感染症

第1種感染症指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、結核指定医療機関として役割を担い、政策的な医療を推進していく。

(4) 重心

重心病棟は120床有しており、重症心身障害の専門医療施設として機能している。
また、重心医療については、粕屋医療圏のみならず福岡県内から広く患者を受け入れている。

② 今後持つべき病床機能

既存の病床機能を維持することにより、区域内の急性期中核病院の役割を担っていく。

なお、休床中病床の42床については、粕屋区域の急性期病床は過剰となっており、今後の需要が見込まれないと考えられることから、2018年度内に削減する予定である。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	68 床	→	68床
急性期	311 床		311床
回復期			
慢性期	120 床		120床
(合計)	499 床		499床

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議	自施設の今後の病床のあり方を検討	<div>集中的な検討を促進 2年間程度で</div>
2018年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	自施設の病床のあり方について関係者と合意を得る	
2019～2020年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定		<div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次医療計画</div>
2021～2023年度			<div>第8期 介護保険 事業計画</div>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率（一般（重心を除く））：91.4%
- ・ 紹介率：75%
- ・ 逆紹介率：75%

経営に関する項目*

現時点では基金の活用を想定していない。

その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）